

1 競争力の高い魅力ある観光地の整備

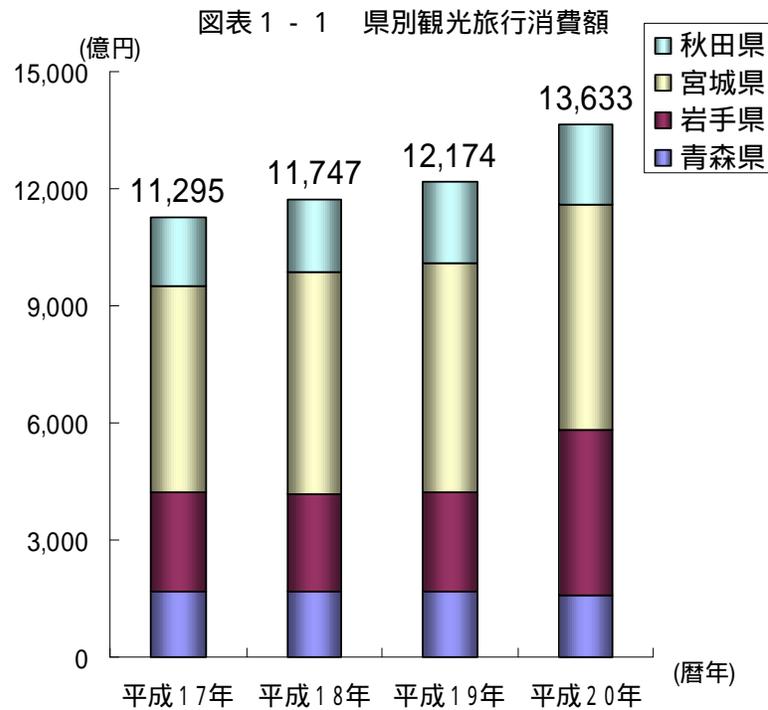
本章に位置づけられた目標

競争力の高い魅力ある観光地の整備
 観光資源の活用
 交通施設の総合的な整備

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：東北6県における観光旅行消費額

観光消費額は増加傾向にある。



(資料) 各県観光統計及び東北運輸局調べ

観光旅行消費額について、山形県及び福島県は平成18年度のみしかデータがない。
 このため、他の4県分の合計値となる。

また、各県の算出方法が統一されていないため、参考値である。

(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

答申の要点

観光は地域経済に対して大きな波及効果を持ち、地域全体の活性化に寄与している。また、最近の観光では、地域住民による「観光地づくり」への参加など関係者の広がりや、ニューツーリズムなどの概念の広がり等が見られ、観光の捉え方が大きく拡大している。さらに、地域資源を有機的に最大限活用した地域ぐるみの観光地づくりが求められている。

本目標に位置づけられた施策

- 「東北ならではの」の観光魅力の発揮
- 「東北観光ブランド」の確立
- 「地域づくり」の視点からの観光振興
- 「連携」の推進
- 東北地方の観光地全体のレベルアップ

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：観光圏認定数
観光入込客数

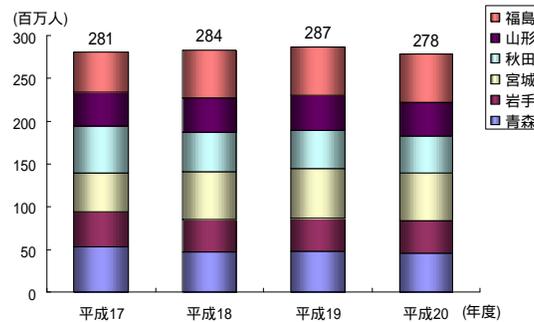
観光圏認定数は新たに2地域が認定され5観光圏となった。
観光入込客数は横ばい傾向にある。

図表 1 - 2 観光圏認定数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
観光圏認定数(件数)	-	3	5

(資料) 東北運輸局

図表 1 - 3 観光入込客数



(資料) 各県観光統計

- 1 観光入込客数は、特定の観光地点を通過する観光客の延べ人数であり、回遊観光客が複数カウントされている場合がある。
- 2 山形県は年度、その他は暦年での集計である。

魅力ある観光地整備についての取り組み状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
「東北ならではの」の観光魅力の発揮	<p>「おくのほそ道研究会」を発足 <東北観光推進機構></p> <p>(株)全旅の『地旅』エントリー(三陸鉄道・貸切バス・地産池消レストラン・久慈市の体験などを組み込み)</p> <p><全国旅行業協会 岩手県支部></p>
「東北観光ブランド」の確立	<p>宿泊施設等約 110 社の協力を得て「こころもあつたまる冬の秋田路キャンペーン」を実施 <秋田県></p> <p>太宰治生誕百年のロゴマーク、冬季のキャンペーンロゴ(「どんなフユ? ワンダフユ! 青森。」)の活用 <青森県></p>
「地域づくり」の視点からの観光振興	<p>喜多方市における地域資源をプログラム化した喜楽里博の開催 <JTB 東北></p> <p>地域が一体となって地域の魅力を向上させる取組を促進させるため、地域活動団体の調査(200 団体)等の実施 <青森県></p>
「連携」の推進	<p>「天地人」を活用した新潟・山形県との連携(モデルコースの提案等) <福島県></p> <p>「新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏」の認定 <青森県></p> <p>「日本海きらきら羽越観光圏」の認定、「めでためでた 花のやまがた観光圏」採択に向けた取組の実施 <山形県></p>
東北地方の観光地全体のレベルアップ	<p>「豪州市場研究会」「MICE 推進」「インバウンド促進セミナー」等の開催 <東北観光推進機構></p>

は実施団体を示す

具体事例紹介： 観光地間の連携 ～観光圏整備事業～

広域的な連携・役割分担による観光地づくりの成功事例を早期に構築するため、国内外からの観光客の 2泊3日以上滞留型観光が可能な「観光圏」の形成に向けた地域の関係者の連携による取組を支援。

観光圏整備のイメージ

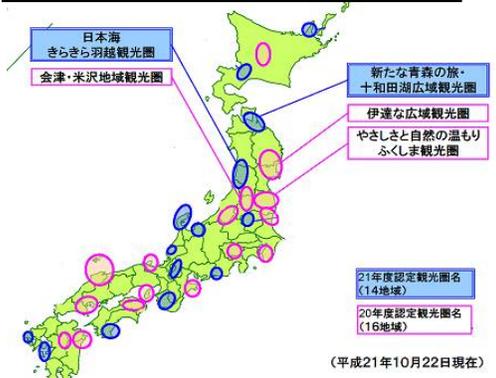


観光圏整備に対する支援

観光圏整備事業費補助
 観光圏整備計画に基づいて行う地域の関係者による取組について費用を補助。
 ・補助額：事業費の4割
 ・補助期間：原則2か年

社会資本整備についての配慮
 (観光圏整備法第19条)
 観光圏整備事業の円滑かつ確実な実施が促進されるよう十分に配慮

- 東北における認定観光圏**
- 【20年度認定】
- ・伊達観光圏
 - ・ふくしま観光圏
 - ・会津・米沢観光圏
- 【21年度認定】
- ・青森・十和田湖観光圏
 - ・日本海きらきら羽越観光圏



具体事例紹介：観光圏 ～伊達な広域観光圏～

伊達な広域観光圏

～ゆっくり滞在、伊達な時間（とき）を過ごす旅～

観光圏が目指すブランドイメージ

- 伊達文化と奥州藤原文化
⇒多様性と深みのある地域
- 豊富な体験型観光メニュー
⇒飽きずに滞在できる地域
- 域内を移動しながらの長期滞在
⇒「おくのほそ道」のハイライト

伊達な広域観光圏の概要

宮城県：仙台市、気仙沼市、大崎市、登米市、松島町、南三陸町、利府町
岩手県：一関市、奥州市、平泉町
以上2県にまたがる6市4町の全域
※藩政時代に山台藩として一体であった地域

観光圏の数値目標

平成20年度から平成24年度の5か年で
入込数を500万人、宿泊者数を94万人増やします
観光客入込数 4,098.4万人 ⇒ 4,598.4万人
域内宿泊者数 689.9万人 ⇒ 782.6万人

協議会の概要

【名称】伊達な広域観光推進協議会
【構成員】区域内6市4町の
・自治体首長
・商工関係団体長
・観光関係団体長

協議会の組織

- 宿泊部会… 宿泊事業者を中心に、軸となる観光圏連泊プランを企画実施
- 作業部会… 自治体中心として、地域の取組をバックアップする

特に重要な事業

観光旅客の宿泊に関するサービスの改善及び向上に関する事業

- 伊達なグルメ料理開発推進事業
⇒各地に名物料理を開発して、旅行商品に組込
⇒相互試食会の開催による料理の知名度向上
- 伊達な連泊プラン達成事業
⇒宿泊部会を中心に、観光圏旅行プランを作成

観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業

- ゆっくり滞在プログラム開発事業
⇒体験メニューを組合せた旅行商品づくり
- 伊達な観光圏カブサリ・音匠プロジェクト達成事業
⇒より多くの観光資源に触れてもらう仕組みづくり

社会資本整備事業等との主な連携

- 仙台北部道路整備事業
⇒平泉と松島の間の移動時間が短縮される
- 登米志津川道路整備事業
⇒時間距離の短縮により、周遊型観光の促進
- 名取川直轄総合水循環環境整備事業（広瀬川）
⇒市街地で静けりができる清流の魅力づくり
- 子ども農山漁村交流プロジェクト
⇒体験型観光の振興による、交流の拡大

【伊達な時間を過ごす、ゆっくり滞在プログラム事業】

事業概要：観光圏全体としてのパンフレットを作成し旅行会社へ商品造成を働きかける

- ・二次交通（各宿泊施設の足と公共交通機関）を中心とした圏域内の高速・一般交通網の紹介
- ・各宿泊施設の冬らしい季節感のある宿泊プランや各地域の体験プログラムの紹介

実施目的：個人・小グループ・ファミリー客、団塊の世代や教育旅行客の長期滞在促進滞在型の飽きさせない旅行商品をモデル造成、観光客の満足度を検証する実証実験の実施



具体事例紹介：観光圏 ～やさしさと自然の温もりふくしま観光圏～

やさしさと自然の温もりふくしま観光圏

～ここでは、あなたを優しくする風に出逢えます～

観光圏の区域：福島県 福島市、相馬市、二本松市、伊達市の区域
 観光圏整備計画の期間：平成20年10月1日～平成25年3月31日
 数値目標の設定：観光入込客数(万人)1,104(19年度) 1,210(24年度)
 ：宿泊客数(万人)198(19年度) 212(24年度)

国の支援及び特例内容
 観光圏整備事業費補助
 旅行業法の特例
 認定観光圏案内所
 農山漁村活性化プロジェクト交付金

- やさしさ…バリアフリー観光の推進
- 自然の温もり…自然・食等、体験型観光
- 滞在促進地区の宿泊魅力向上のために
 - ・バリアフリーツアーセンター設置事業
 - ・誰でものんびり素敵なふれあいプログラム開発事業
 - ・福島の「食」パラエティ宿泊パック事業（海の幸、里の幸、山の幸「食」プラン開発）
- 主な観光コンテンツの充実のために
 - ・ふくしま体験物語事業
 - ・海、里、山、川自然体験
 - ・農業体験
 - ・泊まり歩きプラン
 - ・手工芸物づくり体験
 - ・既存施設のコンテンツ連携
- 交通アクセスの向上のために
 - ・ふくしま観光圏二次交通サービス向上事業
 - ・レンタカー活用観光事業
 - ・高速道路と連携した事業
 - ・ETCアクティブドライブチャンス
- 情報提供の充実のために
 - ・バリアフリーツアー情報提供事業
 - ・ボランティアコンシェルジュ及び観光案内ボランティア事業



- 社会資本の整備
 - ・荒川の整備・阿武隈川整備
 - ・国直轄権限代行事業の推進

福島市・相馬市・二本松市・伊達市観光圏協議会
 福島市、相馬市、二本松市、伊達市、観光協会ほか、宿泊・商工・農林水産関係者等

【認定観光圏案内所の設置】

認定観光圏案内所：観光圏全体にかかわる観光案内や、体験案内デスクの役割を担う
 圏域内情報の受発信

設置時期：2009年7月24日（福島市観光案内所内リニューアルオープン）



具体事例紹介：観光圏 ～会津・米沢地域観光圏～

会津・米沢地域観光圏 変わらぬぬもり、変わる楽しみ
～会津・米沢 千の旅回廊～

観光圏の区域：〔福島県〕会津若松市、喜多方市、下郷町、南会津町、西会津町、北塩原村、磐梯町、猪苗代町〔山形県〕米沢市の区域

観光圏整備計画の期間：平成20年10月1日～平成25年3月31日
数値目標の設定：観光入込客数(万人)1,829(19年度) 1,926(24年度)
：宿泊客数(万人)281(19年度) 304(24年度)

国の支援及び特例内容
・観光圏整備事業費補助
・旅行業法特例

会津・米沢地域観光圏整備
推進協議会
各市町村、観光協会、宿泊業者、商工業者、交通事業者、農業関係者、国際交流団体等

主な宿泊魅力の向上事業
・東山・芦ノ牧温泉地区の魅力向上事業
温泉を核として滞在促進地区全体の魅力を高めるとともに、地元温泉街ならではの雰囲気作り
・会津・米沢地域観光圏魅力向上のための事業
2泊以上の連泊プランを実施する宿泊施設について観光圏HP等にて情報発信を行う
・北塩原村ライヴ かわ事業
早朝の幻想的な風景を発信し、宿泊することで体感できる仕組みを構築する

主な交通移動の利便向上事業
・県境を越えた広域連携レトロバス調査事業
(会津若松～米沢間)
NHK大河ドラマ「天地人」放映に合わせ、山形県米沢市から会津への送客を図るとともに二次交通の利便性について調査
・二次交通充実促進事業
(季節を堪能出来る「お座敷・トロッコ」展望列車)が走る会津鉄道と既存観光周遊バスの接続調整および割引共通利用券の設定。また、乗り場や接続交通等を案内する看板の設置や情報提供活動を行う)
圏域拡大による高速自動車道の利活用
主要幹線である東北・上越自動車道から磐越自動車道へのアクセスが増え、圏域内における利活用が期待できる

主な観光案内・観光情報の提供事業
・仏都周遊マップ作成事業
会津仏教文化発祥(806)の地と寺社仏閣を新たな観光の切り口として観光圏域内を2泊以上させる
・磐梯山周辺ベトナム情報提供事業
磐梯山周辺(3町村)が連携し、ベトナムとともに入出可能な宿泊・飲食・体験施設の情報発信
・大内宿観光案内所による情報提供事業
年間約100万の観光客の大半は日帰客であるため、突然の宿泊要望客に対し、宿泊情報および圏域情報を発信



主な観光コンテンツ充実事業
・小野川温泉魅力向上事業
「ほたる」の飛び交う自然豊かな環境を向上させながら、温泉地のまち歩きの魅力発信する
・西会津味噌ラーメンマスターへの道：事業
会津野沢宿「味噌ラーメン会」と喜多方市協力店をめぐるスタンプカードを作成し、相互に送客を図る
・着地型ニューツーリズム旅行商品の開発事業
観光圏域内における着地型旅行商品を企画実施し、誘客を図る

社会資本整備事業等との連携
・会津地域高規格道路の整備
若松～喜多方間高規格道路
・国道121号の整備促進(喜多方～米沢間の大峠)
・国道289号および国道49号の整備促進

【会津 米沢・愛の温泉 夢の連泊レインボープラン】
目的：両地域の交流促進による、特にオフシーズンの観光客入込数と連泊者数の増加
事業概要：国道121号線(大峠道)の利便性、両地域の近さを県内外にPR
新しい観光ルートを開発し、それぞれの地域のみを訪れていた観光客の交流促進を図る
企画内容：観光圏内滞在促進地区(芦ノ牧温泉、東山温泉、西会津町温泉、熱塩温泉、日中温泉、中ノ沢温泉、白布温泉、小野川温泉、湯野上温泉)が連携し、2つの温泉宿を転泊で2泊目が半額となる連泊プランの商品造成。

具体事例紹介：観光圏 ～新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏～

新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏

地域の自然と生活を体感させる
環境と共生した広域観光圏づくり

新たな青森の旅・十和田湖広域観光協議会

国の支援及び特例内容：
・観光圏整備事業費補助

青森市、八戸市、十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、
おいらせ町、各観光協会、商工会、農協、漁協、民間企業 等

観光圏の区域：青森県青森市、八戸市、十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、おいらせ町
観光圏整備計画の期間：平成21年4月1日～平成26年3月31日
数値目標の設定：観光客入込数1,931万人(19年) 2,046万人(25年)
宿泊者数 204万人(19年) 234万人(25年)

宿泊に関する サービス改善事業

「新たな青森流湯治体験」
滞在化事業
「食文化堪能」
泊食地域連携事業
・滞在型プラン「3日湯治」
・「八戸あさぐるブラッシュアップ」



観光資源を活用した サービス開発事業

「生活・環境体験プログラム」
開発事業
「生活環境体験」
伝導人材育成事業
・新南部馬を活用したルート開発事業



観光に関する 情報提供の充実事業

地域情報発信事業
大都市圏特定マーケット交流
「縁づくり」事業



移動の利便性向上事業

二次交通利便性・
快適性向上事業

・「まちなか観光ルートバス」
・「八甲田巡回バス」など



その他の事業

資源と共生する
「新たな青森観光ルール」
構築事業

地域資源活用研究事業

・北里研究所病院と
の共同研究事業
など



八甲田山

社会資本整備事業との連携

一般国道4号、45号の整備促進
東北縦貫自動車道八戸線の整備促進
八戸・久慈自動車道の整備促進
青森港・八戸港整備事業
馬淵川の総合的な治水対策事業
三沢空港の安全確保・利便性向上



【八戸あさぐるブラッシュアップ事業】

実施目的：近年観光客にも認知され始めた「八戸の朝市」という既存の
観光資源と新たな観光資源である「早朝銭湯」の連携、八戸市及び周辺
の「宿泊+食」のブランド化

ビジネスの宿泊客が8割

八戸は朝が早く朝市が盛ん

温泉旅館は無いが「銭湯」が多い

宿泊先のホテルからタクシーで朝市・銭湯を堪能し、次の目的地・ホテルへ
実施概要：朝市、銭湯以外の八戸に眠る朝の観光コンテンツの掘り起こし既
存のあさぐる事業と連動させたコース企画とモニターツアーの実施

あさぐる事業を広くPRするためのチラシやパンフレット作成



具体事例紹介：観光圏 ～日本海さらさら羽越観光圏～

日本海さらさら羽越観光圏

～日本海、山の神々、舟運、食を通じたおもてなし～

観光圏の区域：秋田県にかほ市・山形県鶴岡市・酒田市・戸沢村・三川町・庄内町・遊佐町・新潟県村上市・関川村・粟島浦村
観光圏整備計画の期間：平成21年4月1日～平成26年3月31日
数値目標の設定：観光入込み数 1,765万人(19年度)→2,030万人(25年度) 年平均3%増
 宿泊者数 176万人(19年度)→187万人(25年度) 年平均1%増

日本海さらさら羽越観光圏推進協議会

にかほ市・鶴岡市・酒田市・戸沢村・三川町・庄内町・遊佐町・村上市・関川村・粟島浦村・観光団体・交通事業者・民間事業者・NPO法人・農協・漁協等

国の支援及び特例内容

- ・観光圏整備事業費補助
- ・旅行業法特例

主な宿泊魅力の向上事業

“お宿の旅のコンシェルジュ”による着地型旅行商品の販売
 広域観光ルートと滞在促進地区の組み合わせによる連泊商品の造成
 湯野浜・湯田川・由良・あつみ・瀬波の五温泉連泊者へのプレゼント企画

滞在促進地区

*アカデミー賞外国語映画賞「おくりびと」の舞台・山形県庄内

ミシュラングリーンガイド・ジャポン2009 本郷温泉旅館 土門記念旅館 ★★

ミシュラングリーンガイド・ジャポン2009 羽黒山荘 本 ★★ ★★ 酒井氏邸 ★★

主な観光コンテンツ充実事業

圏域共有資源で織り成す広域観光ルートの設定（奥の細道北限の旅、出羽三山山岳信仰の旅など7本）
 “今だけ・此処だけ”の体験プログラムの開発と着地型旅行商品化
 連泊者限定特典を満載した2泊3日の観光圏共通バスポートの発行

主な農山漁村交流促進事業

グリーン・ツーリズムと田舎暮らし体験
 わくわく飛鳥体
 鶴文の不思議アイランド
 フルーツ収穫体験

主な交通移動の利便性向上事業

レトロバス等による二次交通実証実験
 街なか循環シャトルバスの運行改善
 湯野浜温泉 湯野温泉 湯田川温泉 湯野温泉 湯野温泉

主な観光案内・観光情報の提供事業

“街の旅のコンシェルジュ”による広域観光情報の案内
 統一ロゴ・デザインを活用した一体的・効率的な観光情報の発信
 IT活用による複数言語の情報発信

その他、社会資本整備事業等との連携

観光宣伝と2泊3日のモニターツアー

戦略的事業展開のための各種調査

日本海沿岸東北自動車道の整備

【庄内レトロバスの運行】

実施時期：平成21年7月～12月中旬

運行ルート：鶴岡駅～致道博物館～松ヶ岡開墾場～庄内映画村オープンセット

運行台数：レトロバス1台

実施目的：観光資源を有機的につなぐ二次交通の整備
 商業ベースに乗せるための運行形態、時刻設定、ルート、運賃、運行回数などの検証・分析
 城下町にふさわしいレトロバスの走る観光地として、観光需要の喚起を図るとともに、観光圏の広告塔として運行

資料館のある観光・開墾現場では、開墾や開港などのアウトラインも観覧いただけます。

(2) 観光資源の活用

答申の要点

祭り・伝統芸能、温泉、自然・四季の彩り、歴史・文化、食、雪、スポーツ、田園・中山間地域等の景観・生活様式、都市、地域の産業等、「地域ならではの」「東北ならではの」の観光魅力を発掘・育成し、活用することが重要。

本目標に位置づけられた施策

- 文化財・歴史的風土
- 優れた自然の風景地
- 良好な景観
- 温泉その他の文化・産業等

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：主要な夏祭り来訪者数

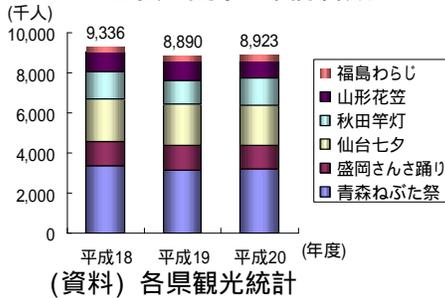
観光資源評価 A 級以上の自然系資源における来訪者数

蔵・曲がり家等の観光地来訪者数

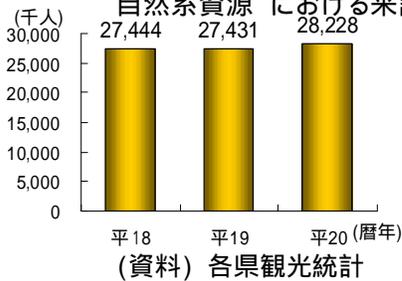
「最も行ってみたい温泉地ベスト50」掲載温泉地来訪者数

「夏祭り」、「温泉地」の来訪者は減少傾向にあるが、「観光資源評価 A 級以上の自然系資源」及び「蔵・曲がり家等の観光地」の来訪者は増加がみられる。

図表 1 - 4 主要な夏祭り来訪者数

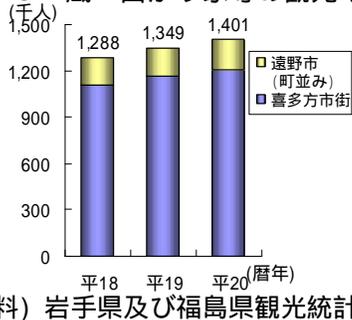


図表 1 - 5 観光資源評価 A 級以上の自然系資源における来訪者数

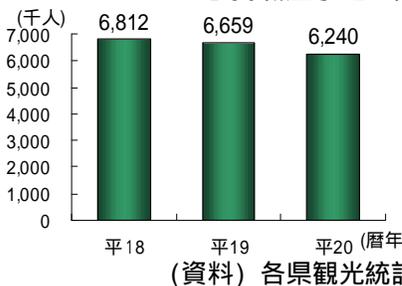


観光資源評価 A 級以上の自然系資源のうち、各県観光統計より入込客数を取得可能なものの合計とした。(奥入瀬、白神山地、十和田湖、八甲田山、岩木山、仏ヶ浦、北山崎、岩手山、八幡平、浄土ヶ浜、龍泉洞、松島、蔵王山、鳥海山、月山、飯豊山、羽黒山の杉並木、磐梯山、吾妻山、磐梯高原、佐渡、阿賀野川、苗場山頂の湿原、清津峡の入込客数の合計)

図表 1 - 6 蔵・曲がり家等の観光地来訪者数



図表 1 - 7 「最も行ってみたい温泉地ベスト50」掲載温泉地 来訪者数者数



「最も行ってみたい温泉地ベスト50」掲載温泉地のうち、各県観光統計より入込客数を取得可能なものの合計とした。(玉川、不老不死、銀山、蔵王、鳴子温泉郷、秋保、高湯、土湯温泉郷、須川の入込客数の合計)

観光資源活用への取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
文化財・歴史的風土	<p>歴史・文化資源等の情報発信を行っているボランティアガイドについて、相互の交流のため観光ボランティアガイド県大会の継続実施 <青森県></p> <p>会津地方における仏教文化の観光への活用(「仏都会津」をメインテーマとしたキャンペーンの実施) <福島県></p>
優れた自然の風景地	<p>遊歩道等、自然公園施設の整備 <宮城県、福島県、仙台市></p> <p>地域等が実施する観光振興につながる自然環境保護活動に対する支援の実施 <宮城県観光連盟></p>
良好な景観	<p>観光コンテンツ化に向け、農村景観を維持するNPO法人に対するアドバイザーの派遣 <青森県></p> <p>六十里街道広域連携プロジェクトの実施(広域連携講座、モデルツアー、広域連携祭、広域連携フォーラムの開催) <山形県></p> <p>地方の元気再生事業及びニューツーリズム実証事業を通じた、棚田や森林を活用したモニターツアーの実施支援 <東北運輸局></p>
温泉その他の文化・産業等	<p>秋保・作並温泉における地元食材を活用した料理の提供の促進 <仙台市></p> <p>観光地づくりアドバイザー派遣による温泉地の魅力アップ(肘折温泉、月山志津温泉など) <山形県></p> <p>八戸あさぐるの商品化 <JTB東北></p> <p>地方の元気再生事業を通じた、湯治体験モニターツアーの実施の支援 <東北運輸局></p>

は実施団体を示す

具体事例紹介：観光資源の活用

地方の元気再生事業
「東北芸術工科大学との連携による地域と観光産業の活性化プロジェクト」

実施概要

実施主体：肘折温泉地域協議会
 企 画：肘折温泉プロジェクト実行委員会、東北芸術工科大学総合研究センター
 実施時期：2009年6月～2010年3月
 実施内容：「東北芸術工科大学との連携による地域と観光産業の活性化プロジェクト」として温泉アートプロジェクトを開催
 6人のアーティストを招待し、温泉文化に触発された作品を制作、温泉街各地に展示等
 モニターツアー「選べる体験プラン付 肘折温泉ちょこっと湯治の旅」

内容

参加アーティスト
 太田三郎、三瀬夏之介、森繁哉+南山座、山崎和樹、松山隼、望月梨絵
 アーティストによるワークショップ
 ・「ひじおり染め」(草木染め)
 ・「紙漉きアートワーク」(葉書や紙のオブジェ作成)
 ・「肘折山水を描く」(肘折をトレッキングし山水画を描く)
 ・「舞踏ワークショップ」
 モニターツアー (JTB 東北)
 ・11月1日～、2月6日～(2泊3日)
 ・仙台圏を中心に募集・実施
 ・28名の参加(2回合計)

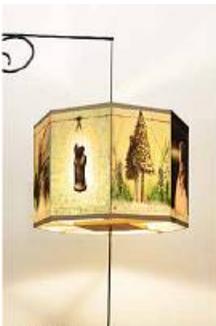


アート、自然、歴史、温泉に関する「体験型メニュー」の充実
 新しい湯治スタイルとなる要素の確立

街歩きと棚田ツアー

実施概要

実施主体：大蔵村ガイド協議会
 実施時期：2009年6月～9月(日曜日のみ)
 温泉街まち歩きガイド 7回
 四ヶ村棚田-ブナ林めぐり 9回 実施
 モニターツアー 2回(森のツーリズムモニターツアー 最上地域観光協議会、J R東日本主催)



＜アーティスト作品

棚田＞



(出典) 肘折温泉ホームページ
 山形県ホームページ

(3) 交通施設の総合的な整備

答申の要点

高速交通体系を有効活用し、二次交通の整備や、イベント開催時等の対応の強化等により、東北地方内の移動を円滑にする取り組みを行う。

本目標に位置づけられた施策

- 高速交通体系の充実・活用
- 高速交通体系以外の旅行者の移動手段の充実
- 各交通手段における「もてなしの心」の発揮

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：新幹線利用者数

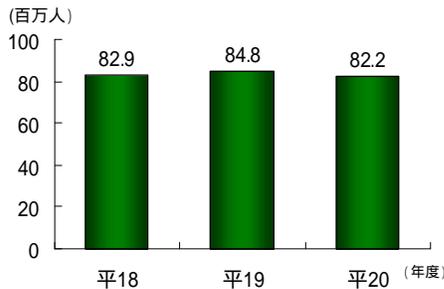
東北各空港利用者数(チャーター便を含む)

仙台空港アクセス鉄道利用者数

東北地方居住者の渡航率

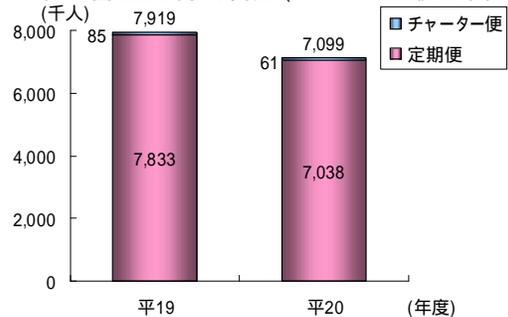
新幹線利用者数や空港利用者数は、平成18年度と比較して減少し、仙台空港アクセス鉄道や東北居住者の渡航率も減少傾向にある。

図表1-8 新幹線利用者数



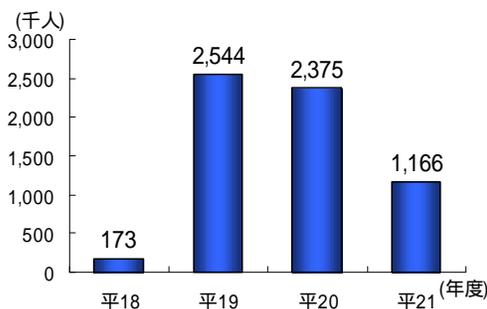
(資料) 東北運輸局

図表1-9 東北各空港利用者数(チャーター便を含む)



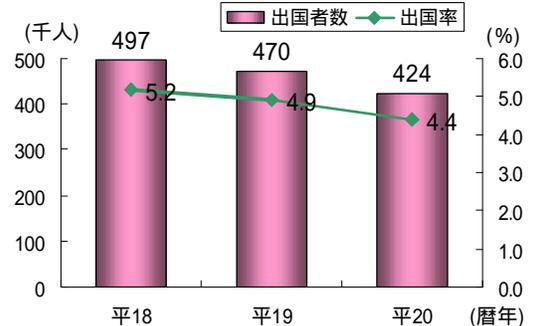
(資料) 東北運輸局、空港ビル管理事務所・空港ビル会社

図表1-10 仙台空港アクセス鉄道利用者数



(資料) 東北運輸局

図表1-11 東北地方居住者の渡航率



(資料) 出入国管理統計年報、住民基本台帳より

利用者数は平成19年3月の開業から、平成21年9月末の各年度合計

東北運輸局推計

交通施設整備についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
高速交通体系の 充実・活用	山形空港ライナーの運行 <山形県> JRリゾート列車とストープ列車接続について利便性改善の 継続 <津軽鉄道>
高速交通体系以外 の旅行者の移動手 段の充実	無料レンタサイクルの実施 <津軽鉄道> EVカーシェアリング、コミュニティサイクルの推進 <JTB東北> 観光タクシーと列車を使い観光地を回廊する企画の実施 <山形鉄道>
各交通手段におけ る「もてなしの心」 の発揮	津軽半島と下北半島を結ぶ、新型リゾート列車の運行に伴う 受入体制を検討する準備会の開催 <青森県> 庄内藩レトロバスの運行 <山形県>

は実施団体を示す

具体事例紹介：無料レンタサイクルの実施

背景・経緯

利用者数の減少に対して様々な対応策の実施

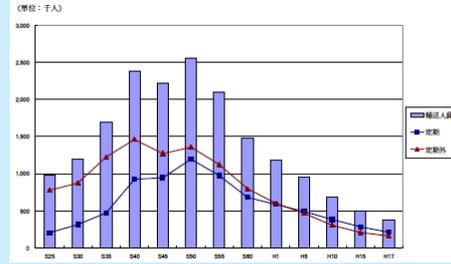
2006年 津軽鉄道サポーターズクラブ創設

レールオーナー制度導入

2009年 トレインアテンダント設置

駅舎を利用したカフェ、店舗等の開設

無料レンタサイクルの実施



実施概要

実施時期：平成 21 年 6 月 16 日～11 月下旬

実施 駅：津軽五所川原駅、金木駅、芦野公園駅（喫茶店「駅舎」）、津軽中里駅

その他：各駅での観光 MAP 作成



無料レンタサイクル		津軽鉄道株式会社	
運行案内	営業案内	沿線ガイド	会社情報
<ul style="list-style-type: none"> 時刻表 運賃表 各駅案内 各駅駅舎利用 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者募集 イベント貸切列車 お知らせ 	<ul style="list-style-type: none"> 沿線ガイド アテンダントガイド 	<ul style="list-style-type: none"> 会社概要 財務情報 安全報告書 国民待遇業務計画

無料レンタサイクル

駅名	レンタル時間	料金
津軽五所川原駅	9:00～17:00の開始	1台 50円
金木駅	9:00～17:00の開始	1台 50円
芦野公園駅	10:00～16:00の開始	1台 50円
津軽中里駅	11:00～17:00の開始	1台 50円

- 申し込み方法：駅舎、芦野公園駅は駅舎1階で無料貸出受付窓口が設置されています。
- 利用時間：平日は朝6時～午後11時、土曜日は朝6時～午後10時、日曜日は朝6時～午後9時です。
- 料金：1台50円、2台100円、3台150円、4台200円、5台250円、6台300円、7台350円、8台400円、9台450円、10台500円です。
- 返却：駅舎、芦野公園駅は駅舎1階で無料貸出受付窓口が設置されています。
- お問い合わせ：津軽鉄道株式会社 TEL 0173-94-2149



(出典) 津軽鉄道ホームページ

具体事例紹介：庄内レトロバスの運行

実施概要

実施時期：平成 21 年 7 月～12 月中旬
 運行ルート：鶴岡駅～致道博物館～松ヶ岡開墾場～庄内映画村オープンセット
 運行台数：レトロバス 1 台
 実施目的：観光資源を有機的につなぐ二次交通の整備
 商業ベースに乗せるための運行形態、時刻設定、ルート、運賃、運行回数などの検証・分析
 城下町にふさわしいレトロバスの走る観光地として観光需要の喚起を図るとともに、観光圏 PR の広告塔として運行

内容

運行日：平成 21 年 7 月～12 月中旬の土日祝
 本数：4 往復/日
 運賃：1 日乗車券 1,000 円
 セットプラン：3,500 円
 庄内映画村オープンセット、庄内映画村資料館（松ヶ岡）の入場料金
 + バス 1 日乗車券

夏休み期間特別企画の実施



(出典) 東北運輸局資料
 庄内交通ホームページ
 鶴岡 庄内レトロ散歩道

2 観光産業の競争力強化と人材の育成

本章に位置づけられた目標

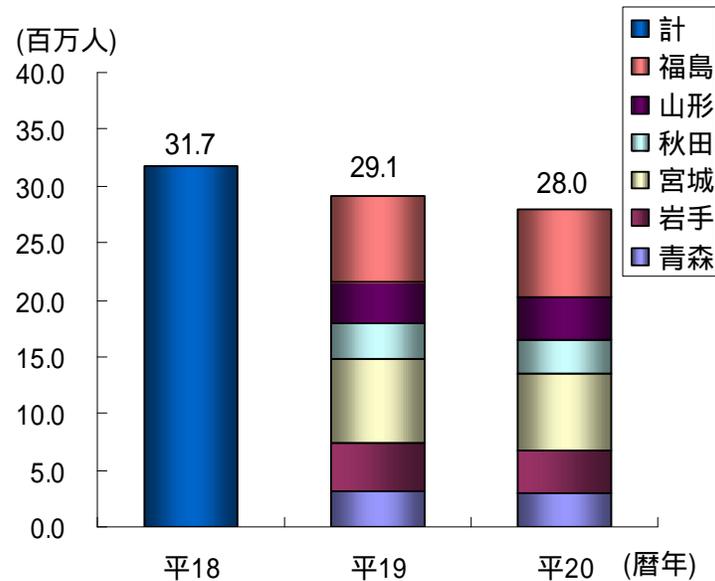
観光産業の競争力強化
人材の育成

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：東北6県における宿泊者数

宿泊者数は減少傾向にある。

図表2 - 1 東北6県における宿泊者数



(資料) 各県観光統計、国土交通省観光経済課 宿泊旅行統計

平成18年は各県観光統計、平成19年以降は「宿泊旅行統計」に基づき作成

(1) 観光産業の競争力強化

答申の要点

メディアへの露出度を高め、マーケティングを実施しながら、知名度の低い地域、大マーケットへの積極的なプロモーションを実施し、またリピート需要獲得に向けた教育旅行の誘致推進、近年の旅行ニーズへの対応等を図りながら、観光産業の競争力を強化する。

本目標に位置づけられた施策

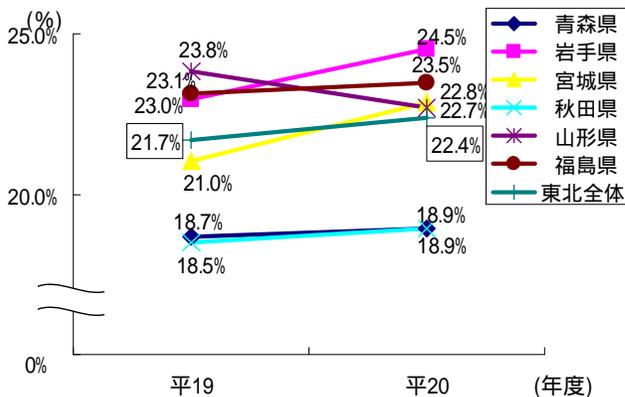
- マスコミ・メディア効果、「口コミ」情報の活用、リピーター需要の重視
- 「マーケティング」「事業評価」に基づく事業設定
- 国内旅行における西日本・首都圏からの誘客促進
- 教育旅行の誘致促進
- 国内旅行における小グループ化の進展に伴う旅行ニーズ変化への対応
- 季節波動の大きさを解消するための冬季の観光振興対策の強化とハイシーズン対策
- 旅行商品の造成
- 宿泊産業の競争力強化

【答申目標の達成状況】

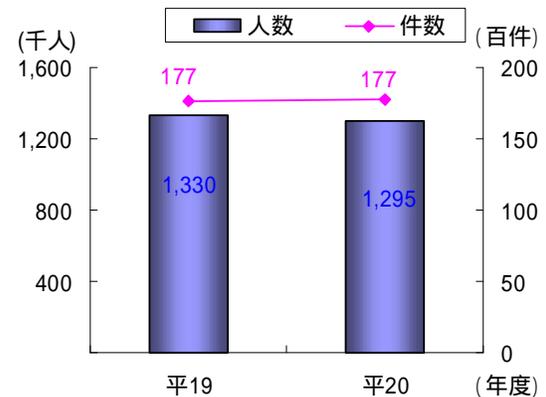
- アウトカム指標：冬季来訪率
- 教育旅行者数・件数

東北全体の冬季来訪率は上昇した。
教育旅行者数は微減し、件数は横ばいである。

z 図表 2 - 2 冬季来訪率



図表 2 - 3 教育旅行者数・件数



(資料) 国土交通省観光経済課「宿泊旅行統計」 (資料) 各年度アンケート調査による
教育旅行者数・件数は岩手県、宮城県、山形県、福島県、仙台市の合計による

観光産業の競争力強化についての取り組み状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
マスコミ・メディア効果、「口コミ」情報の活用、リピーター需要の重視	香港でのテレビ宣伝事業の実施 <東北観光推進機構> 観光博覧会への出展、首都圏での観光物産展へ出展(パンフレット等約 23,000 部を配布) <秋田県>
「マーケティング」「事業評価」に基づく事業設計	国内大都市圏及び海外(東アジア)マーケット調査・満足度調査の実施 <東北観光推進機構> 観光動向調査の実施 <宮城県> 「地域観光マーケティング促進セミナー」等の開催 <東北運輸局、東北地方整備局>
国内旅行における西日本・首都圏からの誘客促進	羽田及び小牧空港での観光プロモーションの実施 <秋田県観光連盟> 北東北三県の協議会事業として、首都圏 JR 主要駅でのパネル展示 <秋田県> 福島空港就航先(大阪)におけるプロモーションや商品造成支援、八重洲観光交流館を拠点とする首都圏向けの情報発信 <福島県>
教育旅行の誘致促進	各地における教育旅行説明会等の実施 ワンストップ窓口や誘致キャラバン活動の継続実施、子ども農山漁村交流プロジェクトの受入体制整備 <福島県>
国内旅行における小グループ化の進展に伴う旅行ニーズ変化への対応	「地域紹介観光ボランティアガイド全国大会(奈良)」への参加 <日本観光協会 東北支部> 地域の素材を生かした多種多様な体験交流メニューの提供(例:いわき市フラオンバク、喜多方市喜楽里博、南会津町やまなみ泊覧会) <福島県>
季節波動の大きさを解消するための冬季の観光振興対策の強化とシーズン対策	「蔵王の樹氷」をテーマにした台湾、香港からの誘客の実施 <山形県> 海外の旅行会社・マスコミに向けた「東北の冬」をテーマとした招聘事業、情報発信 <東北観光推進機構>
旅行商品の造成	着地型旅行商品のメニュー開発のため、第三種旅行者と地域組織を対象とした講座の開設 <青森県> 地元が企画する「山形の旅」コンテストの実施 <山形県> 着地型旅行商品開発などを旨とする地域からの提案に基づいた、モニターツアーの実施 <秋田県観光連盟>
宿泊産業の競争力強化	米沢市内の旅館・ホテルでの泊食分離事業の開始 <山形県> 伊達な広域観光圏の宿泊部会における旅行商品の検討・開発 <仙台市>

は実施団体を示す

具体事例紹介：「地域観光マーケティング促進セミナー」

背景

- ・国内旅行需要の変化に伴い、各地域の固有の魅力を反映させた、より創意工夫豊かな企画旅行商品の開発が必要
- ・各旅行業者は発地からの送客を中心とした取り組みから、着地の地域との「連携」「協働」による地域観光振興を基軸とした取り組みへシフトする傾向



地域観光マーケティング促進セミナー（2箇所）開催
重点支援地区を募集

実施概要

実施主体：東北運輸局、東北地方整備局
実施日：仙台 2009年12月10日
酒田 12月11日
参加者：自治体・観光関係団体・NPO等



事業の展開

地方運輸局・地方整備局による「地域観光マーケティング促進セミナー」の開催
「地域観光マーケティング促進マニュアル」及び「地域観光マーケティング戦略シート」の配布と解説
旅行業界の着眼点、担当窓口、商品造成サイクル等に関する情報の提供

地域の観光まちづくり推進母体による「地域観光マーケティング戦略シート」の作成・提出

「観光まちづくりアドバイザー会議」による「地域観光マーケティング戦略シート」の評価、
情報の収集・整理

地域に対する各種事業の実施
地域の要請等に応じて適宜、アドバイザー会議によるアドバイスの実施
地域の情報（商品化に向けたアイデアや担当窓口に関する情報、推進主体のHPへのリンク等）の、国土交通省のホームページへの掲載
各地域と旅行会社との商談会の開催
観光ルネサンス事業等、国の支援策との連携

アドバイザー会議の審査を経て選定された、1～3地域に対する集中的なコンサルティングの実施
アドバイザー会議による集中的なコンサルティング（＝観光まちづくりコンサルティング事業）の実施
旅行会社の協力を得て、旅行商品化と誘客活動の実施

各地域における取り組み

企画旅行商品としての流通



（出典）東北運輸局資料

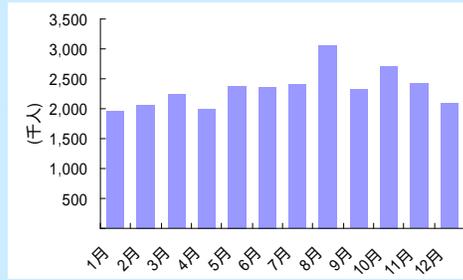
具体事例紹介：冬季における観光客の誘致 ～蔵王「樹氷」～

背景・経緯

- ・冬季における観光客誘致の必要性
- ・台湾、香港等温暖なアジア地域の「雪」への憧れ等、「東北の冬」を活用したPRが可能

2008 プログラムチャーター便によるツアー開始

2009 蔵王の「樹氷」をテーマにプログラムチャーター便によるツアー実施



東北における月別宿泊者数
(出典) 宿泊旅行統計 (平成 20 年 1 ~ 12 月)

実施概要

実施主体：山形県国際観光推進協議会

実施時期：平成 22 年 1 月 21 日より 2 月 22 日

ツアー概要：航空会社 2 社、台湾旅行会社 5 社、就航便数 17 便 による開催

山形県による支援

- ・山形県国際観光推進協議会を通じた広告支援
- ・着陸料の 1/2 減免 (山形県空港管理条例附則第 2 項適用)
- ・チャーター便到着時における空港での歓迎行事 等

内容

蔵王樹氷鑑賞等を含むツアー

- ・5 社のうち 4 社が 4 泊 5 日 (うち山形県 3 泊) の日程
- ・山形県および東北を観光 (蔵王樹氷、銀山、最上川舟下り、宮城蔵王雪上車、仙台 等) 初便における受入歓迎行事、最終便におけるお見送りセレモニーの実施

来訪観光客数

- ・ツアーを企画した旅行社、就航便数、来訪者数が増加

	H20	H21
企画旅行社	1 社	5 社
就航便数	9 便	17 便
観光客数	1,453 人	2,503 人



◀お見送り
セレモニー

蔵王樹氷
まつり▶



(出典) 山形市観光協会ホームページ

(2) 人材の育成

答申の要点

高等教育機関における**人材育成**やボランティアガイド、地域の観光の推進役となる観光の担い手を育成し、**持続可能な推進体制**を構築する。

本目標に位置づけられた施策

大学等高等教育機関
ボランティアガイド等
観光の担い手

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：観光学科等設置数

平成20年度に、「観光学科」を設置する学校が1校増加した。

図表2-4 観光学科等設置数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
観光学科設置大学・高校数(校数)	2	3	3

(資料) 各大学、各県、各高校HP

東北地方の四年制国公立大学、公・私立高等学校のうち、観光系の学科を設置している大学数とした

人材育成についての取り組み状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
大学等高等教育機関	<p>東北学院大学との連携による、奥州市、一関市の中心市街地の活性化事業の実施 <JTB東北></p> <p>東北学院大学経営学部とのおもてなしの勉強会の開催 <仙台観光コンベンション協会></p>
ボランティアガイド等	<p>観光ボランティアガイド講習の実施 <仙台観光コンベンション協会></p> <p>仙台の街なかを案内する観光ボランティアを育成し、キャンペーン期間（10月～12月）での街歩きツアーの実施 <仙台市></p>
観光の担い手	<p>県、市町村、民間観光団体等による連携組織「うつくしま観光プロモーション推進機構」が主体となった、国内誘客プロモーションの実施 <福島県></p> <p>観光まちづくりフォーラムの開催、ワークショップの試行 <山形県></p> <p>スパリゾートハワイアンズでの観光カリスマ塾の開催 <東北運輸局></p>

は実施団体を示す

具体事例紹介：観光カリスマ塾

観光カリスマとは

1. 趣 旨 従来型の個性のない観光地が低迷する中、各観光地の魅力を高めるためには、観光振興を成功に導いた人々のたくいまれな努力に学ぶことが効果的。各地で観光地域振興にがんばる人を育てていくため、その先達となる人々を「観光カリスマ」として選定。
2. 選 定 第8回選定委員会平成17年2月23日までに100名選定
3. 地域への期待 地域のオリジナリティ育成のためには、観光カリスマの活動を形だけ模倣するのではなく、「考え方」を理解すること
観光カリスマのノウハウを上手く活用し、人真似ではない、個性的な観光地づくりが進められていくことを期待

観光カリスマ塾とは

目 的

観光カリスマ塾は、地域のリーダーとして観光地づくりに成功した観光カリスマから、その取組みのプロセスを観光カリスマの現地で直接講義を受け、意見交換をすることにより、次代の観光まちづくりのリーダーを育成することを目的とする。

概 要

観光カリスマを講師として、観光カリスマの現地において、20名程度の受講生を対象に、講師となる観光カリスマ自身が策定するカリキュラムを基に、講義・現地視察等を1泊2日(または2泊3日)のセミナー形式で開催する。

受講資格

自治体関係者、観光関連業界の方、学生の方など、地域の特色を活かした観光振興や地域の活性化、魅力のあるまちづくりに熱意のある者

平成21年度開催概要

「観光カリスマ塾」は、全国8か所の会場で開催
東北では福島県いわき市 常磐興産(株) 斎藤 一彦 氏を塾長として平成21年11月30日(月)～12月1日(火)、1泊2日で開催
テーマ：「炭鉱」から「観光」へ



観光による地域再生のカリスマ
斎藤 一彦 氏

カリキュラムの内容

- ・観光カリスマの取組活動などの講義
- ・観光カリスマによる現地視察・現場体験
- ・受講生によるグループミーティング
- ・地元の関係者との意見交換会など、観光カリスマと地域が取り組んできたことを「体験」できる構成



スパリゾートハワイアンズ

3. 外国人観光客の来訪及び国際相互交流の促進

本章に位置づけられた目標

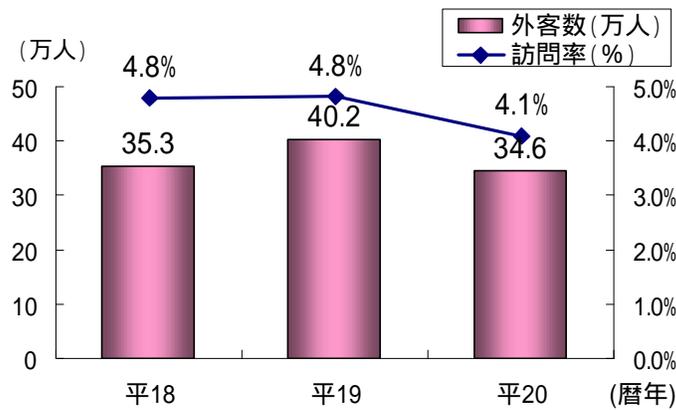
外国人観光客の来訪促進
国際相互交流の促進

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：東北6県における訪日外国人旅行者数
東北6県における国際会議の開催件数

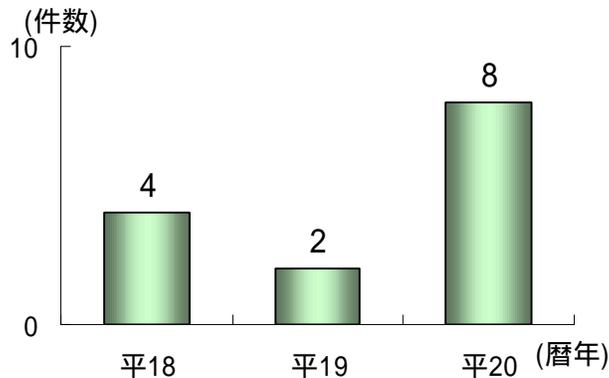
訪日外国人旅行者数、東北への訪問率共に、平成19年と比較して減少した。
東北6県における国際会議の開催件数は、平成18年から倍増した。

図表3-1 東北6県における訪日外国人旅行者数



(資料) 東北運輸局推計値

図表3-2 東北6県における国際会議の開催件数



(資料) 日本政府観光局(JNTO)

(1) 外国人観光客の来訪促進

答申の要点

今後、東アジア地域を中心に**国際観光需要の飛躍的増大**が見込まれる中で、海外市場における東北地方の知名度向上・イメージの浸透を官民が広域連携し一体となって進める。

本目標に位置づけられた施策

- 海外からの「東北ツアー」の造成に向けた取組の促進
- 海外の一般消費者に対する情報提供・予約等の利便性の向上
- 外国人観光客が旅行しやすい環境づくり
- 国際会議等の誘致・開催

【答申目標の達成状況】

- アウトカム指標：各県観光ホームページにおける多言語対応サイト数
- 東北の各空港における国際チャーター便利用者数
- 通訳案内士数
- 国際会議開催件数

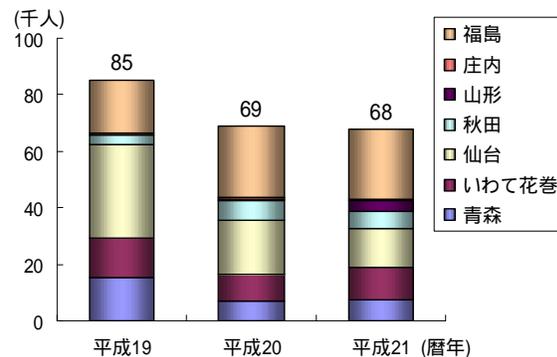
各県の観光ホームページは外国語に対応している。また、通訳案内士数は増加した。一方、国際チャーター便利用者数は減少した。

図表3-3 各県観光ホームページにおける多言語対応サイト数

県名	外国語対応 (対応外語数)
青森県	対応(3)
岩手県	対応(3)
宮城県	対応(3)
秋田県	対応(3)
山形県	対応(3)
福島県	対応(3)
サイト数	6

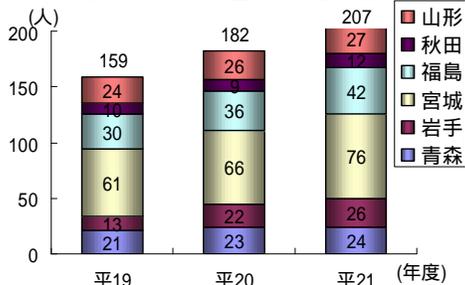
(資料) 各県又は観光協会・連盟ホームページ

図表3-4 東北の各空港における国際チャーター便利用者数



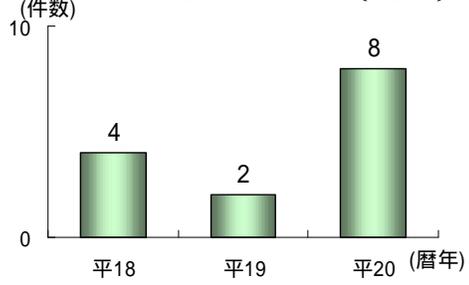
(資料) 空港ビル管理事務所・空港ビル会社

図表3-5 通訳案内士数



(資料) 観光庁

図表3-6 国際会議開催件数(再掲)



(資料) 日本政府観光局(JNTO)

外国人観光客の来訪促進についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
海外からの「東北ツアー」の造成に向けた取組の促進	台湾、香港における現地コーディネーターの設置 <山形県> VJC 地方連携事業として海外の旅行エージェント、メディア招請、テレビ放送による宣伝事業の実施 <東北運輸局、東北観光推進機構>
海外の一般消費者に対する情報提供・予約等の利便性の向上	海外向けに 4 言語（英語、繁体字、簡体字、韓国語）でのホームページ作成 <東北観光推進機構> 自治体等によるホームページの多言語化 <各県> 台湾向け web マガジンの制作 <秋田県> 国際旅行博への出展 <福島県>
外国人観光客が旅行しやすい環境づくり	多言語パンフレットの作成 <福島県、山形県> 空港のレンタカーに外国語で案内するカーナビの導入 <東北地区レンタカー協会連合会> 英語、韓国語、中国語に対応可能な人材をアドバイザーとして配置、セミナー等の実施 <青森県> 表示の多言語化について調査、実証実験の実施 <東北運輸局>
国際会議等の誘致・開催	「MICE 促進フォーラム」の開催 <東北観光推進機構、仙台観光コンベンション協会>

は実施団体を示す

具体事例紹介： 海外からの「東北ツアー」の造成に向けた取組の促進



東北6県・新潟県の官民が一体となって、海外の重点市場（韓・台・米・中・香・タイ・シンガポール・仏）から旅行エージェントのキーパーソン39名を招請。東北視察ツアー、交流商談会等を実施し、「東北の冬」をテーマに東北の美しい風景や旬の食、温泉、雪遊び、祭りなど、東北の魅力を重点市場に対し強力に情報発信し、旅行商品造成を促進する。

〔事業概要〕

日 程 交流商談会・懇親会等 9月7日(月) 宮城県仙台市
 東北視察ツアー 2009年9月8日(火)～9月12日(土)
 参加者数 【海外からの招請者】 39名
 事業費 2,600万円 (うちVJC負担額1,300万円)
 主催 東北運輸局・東北観光推進機構

東北視察ツアー

各重点市場の旅行エージェントが、東北各地を周遊し、東北の冬をテーマに美しい風景、温泉、食などの観光資源を体感。



秋田県 乳頭温泉

○海外重点市場毎の趣向に合わせた観光資源の紹介と東北の知名度向上
 ○インバウンド商品の造成
東北を訪れる外国人観光客の飛躍的拡大を図る



岩手県 安比高原スキー場

視察コース図凡例

- 北東北3県周遊
- 南東北3県・新潟県周遊
- 東北・函館縦貫



交流商談会

東北の観光関係者等と海外旅行エージェントによる具体的な商談を実施



交流商談会

具体事例紹介：外国人観光客が旅行しやすい環境づくり～多言語化調査～

外国人観光客受入れ体制整備のための案内表示等の多言語化調査



(目的)観光立国の実現に向け、観光客の移動円滑化を図ることが必要。交通機関及び観光地における案内表示等については、主なターミナル等を除き英語表記のみとなっている状況であることから、その多言語化の必要性について検証を行うとともに『多言語化情報提供モデル』の確立に資するため実証実験を実施。

実施地域

一関・平泉地区

「平泉世界遺産登録受入体制整備促進協議会」を設立

構成メンバー：岩手県、一関市、平泉町、JR東日本、岩手県交通 一関観光協会、平泉観光協会、東山町観光協会等

検討内容

- 標準的な表示内容(全ての言語対象)
- 標準的な案内表示用語の訳文のあり方。
- 文字の大きさ、言語の配置や順番等のデザイン。
- 外国人に正しく伝えることができる多言語表示。
- 公共交通機関の切符売り場等における必要最小限の情報。
- 案内表示の多言語が必要な範囲(対象言語：英語に加え簡体字、繁体字、韓国語)
- 何が必要で、何は不要か。
- 歴史、文化的施設、フォトスポット等の表示方法。
- 戦略的な情報提供のあり方
- 日英表記のみの案内看板と中韓表記のパンフレットやマップとの組み合わせ。
- 言語に頼らない表示方法の工夫。
- 色の工夫または統一。
- 日本語漢字表記のみで足りるものの整理

対象地域における実地調査

- 現時点における整備状況を外国人の視点で現地点検。
- 点検結果を踏まえ、必要に応じ案内表示の改善・充実。そのうえでモニタリング調査を実施し事業効果を測定。
- 報告書を作成。

(主な変更内容)

- 案内表示のリニューアル
- 4カ国語表記
- トイレの案内表記

各地方運輸局の調査結果を踏まえ、統一的なガイドラインの作成を目指す

(参考)

外国人一人歩き点検隊による改善事例

青森空港

[指摘内容]

国際線到着ロビーから、トイレの位置が分かりにくい。遠くからでも分かりやすい案内表示にすべき。

[改善内容]

案内表示をピクトグラムに加え4カ国語にて表記。



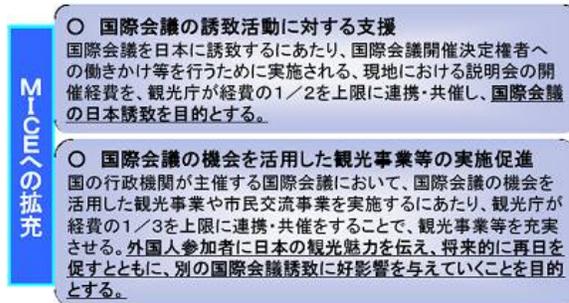
具体事例紹介：MICE 促進フォーラム

MICE概要

M(Meeting) : 企業等のミーティング、セミナー等
 I(Incentive(Travel)) : 企業報奨・研修旅行(従業員の表彰や研修などの目的で実施)
 C(Convention) : 国際団体、学会、協会が主催する総会、学会会議等
 E(Event / Exhibition) : 文化・スポーツイベント、展示会・見本市
 経済効果を生み出し、地域の活性化に大きく貢献。また、海外からの参加者も多く、国際観光の振興にもつながる
 MICEの振興のためには官民一体による推進が必要
 2009年7月 MICE推進アクションプラン策定(観光庁)

実施概要

実施主体：仙台観光コンベンション協会・東北観光推進機構
 実施日：2009年10月14日
 参加者：MICE関係者120名
 内容：MICE推進アクションプランについて
 先進他都市の事例を含むMICEへの取り組みについて
 韓国インセンティブ旅行市場の現況と東北における誘致・受入について



具体事例紹介：英語対応ナビゲーション付レンタカーの導入

背景

- ・外国人観光客の旅行手段の多様化、個人化が進展
- ・韓国からはリピーターの個人旅行が中心だが、都市部への来訪が多い
- ・台湾等でも今後団体旅行から個人旅行への転換が予想される
- ・北海道での先行事例（「ドラ旅」等レンタカーを活用した旅行プランを実施）



レンタカー利用環境整備として試乗体験の実施、英語対応カーナビ導入

実施概要

試乗体験：平成 21 年 6 月 シンガポールの新聞記者ら 4 人による旅行体験
（宮城、岩手、山形各県）

実施地域：仙台市（トヨタレンタリース宮城）

導入実績：乗用車・ワゴン車約 1,280 台のうちこれまでに 100 台に導入

【仕様】

地図が一部英語表記可能

英語での音声案内

【現況】

- ・外国人客の利用は月平均で数件程度
- ・拡大を見込み、ナビで目的地を検索できる位置情報コードを掲載した観光ガイドを作成予定
- ・香港等も視野に、レンタカーの利用促進の在り方を検討予定



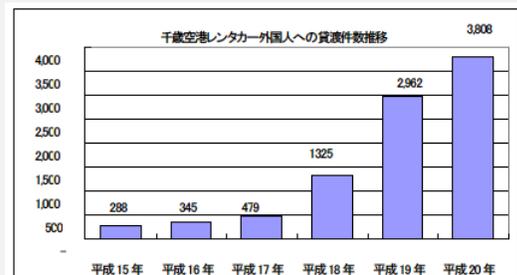
北海道での傾向と課題

【現況】

- ・平成 18 年度以降、北海道来訪外国人のレンタカー利用が急増

【課題】

- ・レンタカー貸出の手続きや給油のしくみ、交通ルールが異なるため敬遠する旅行者もみられる
 - ・レンタカーを利用する外国人による事故が多発、安全性の確保が課題
- （セルフのガソリンスタンドで軽油を入れた事故、一時停止不停止での衝突事故、駐車場内での後方確認不足による接触事故等）



5ヶ国語対応カーナビゲーション

（出典）河北新報 2009 年 10 月 10 日（土）記事

北海道における外国人ドライブ観光推進方策検討調査

(2) 国際相互交流の促進

答申の要点

東北地方から海外への渡航者を増やし、また姉妹・友好都市関係を活かした観光プロモーション等による交流拡大、東北地方への訪日教育旅行の誘致促進を通じて、国際相互交流を促進する。

本目標に位置づけられた施策

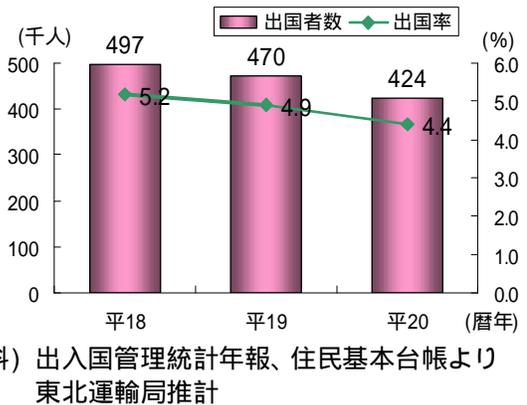
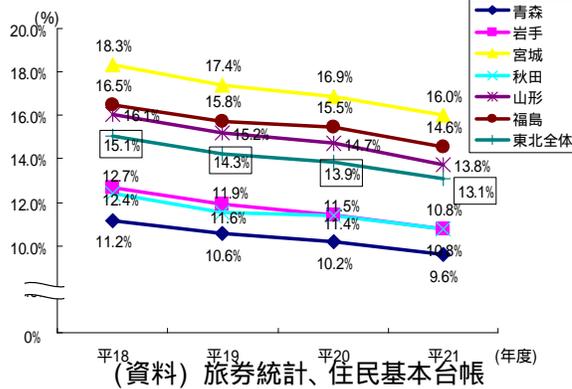
- 世界に開かれた観光交流
- 姉妹都市連携
- 訪日教育旅行

【答申目標の達成状況】

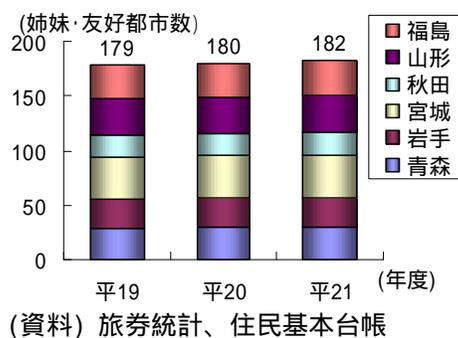
- アウトカム指標：東北地方居住者パスポート保有率
- 東北地方居住者の渡航率
- 姉妹・友好都市数
- 訪日教育旅行件数、旅行者数

東北地方居住者のパスポート保有率、渡航率、及び訪日教育旅行件数、旅行者数は減少した。

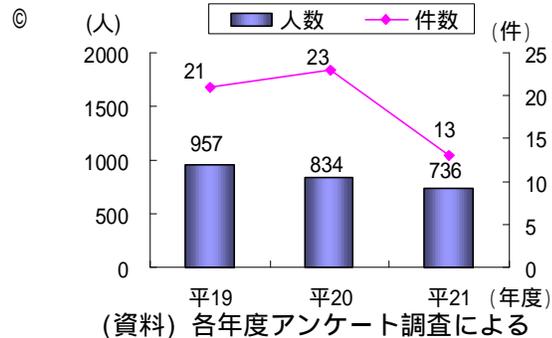
図表3-7 東北地方居住者パスポート保有率 図表3-8 東北地方居住者の渡航率



図表3-9 姉妹・友好都市数



図表3-10 訪日教育旅行件数、旅行者数



国際相互交流の促進についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
世界に開かれた観光交流	海外旅行商品での JTB 東北パスポートキャンペーンの継続実施（パスポート新規取得、継続取得促進） <JTB 東北> 空港を活用した海外交流の促進のため、交流活動への助成を継続実施 <秋田県、福島県>
姉妹都市連携	観光姉妹都市との相互交流の継続実施 <仙台市>
訪日教育旅行	「訪日教育旅行誘致部会」の設置 <東北観光推進機構> 各県における韓国、台湾、中国、シンガポール等での現地説明会や招聘の実施<東北 6 県及び仙台市>

は実施団体を示す

具体事例紹介：姉妹都市との交流促進事業

仙台市

実施概要

姉妹都市：光州広域市（韓国）

訪問期間：2009年10月23～24日 2009光州キムチ文化まつり

交流内容：明成高等学校調理科の生徒が参加、各国の料理紹介（試食）コーナーで仙台味噌の味噌汁とずんだパフェを紹介



△キムチ文化まつり



△日本食ブース



△現地での交流

久慈市（岩手県）

実施概要

姉妹都市：クライペダ市（リトアニア共和国） 提携20周年記念事業

訪問期間：2009年7月30日～8月3日

クライペダ市「The Tall Ship Race Baltic 2009」開催（期間中300万人来訪）

交流内容：鏡開き、日舞・茶道・書道・華道の実演、物販ブース・文化紹介ブース開設



➤「日本プログラム」の実施

秋田市

実施概要

友好都市：蘭州市（中国）

実施期間：2009年10月29日～11月12日

交流内容：蘭州市から講師を招聘、市民講座を開催
蘭州牛肉麺の講師による講習会、計7回、
約120人受講



（出典）光州広域市ホームページ、仙台 NOW!2009年12月号
久慈市ホームページ、秋田市ホームページ

4. 東北地方への来訪促進のための環境整備

本章に位置づけられた目標

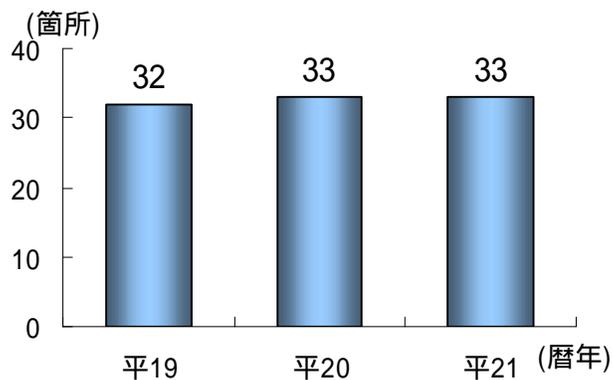
観光地における環境及び良好な景観の保全
観光旅行者の利便の増進
新たな観光旅行の分野の開拓
接遇の向上等
その他（観光旅行の安全、観光統計）

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：東北6県における外国語対応可能な「ビジット・ジャパン案内所」
（箇所数）

平成20年は増加したものの、平成21年は箇所数に変化はなかった。

図表4-1 東北6県における外国語対応可能な「ビジット・ジャパン案内所」(箇所数)



(資料) 東北運輸局

(1) 観光地における環境及び良好な景観の保全

答申の要点

持続的な観光振興を続けるため、関係者が常に意識して**環境、良好な景観を保全する。**

本目標に位置づけられた施策

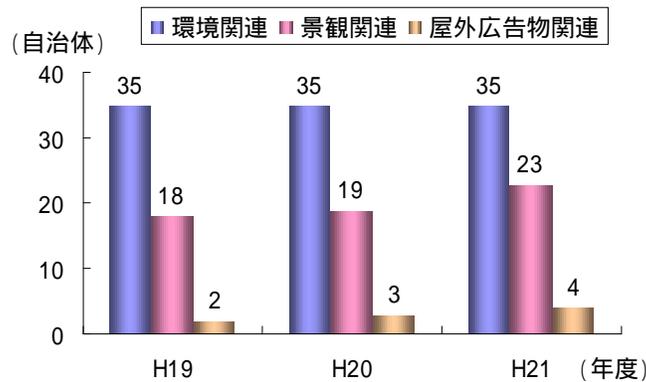
- 環境の保全
- 良好な景観の保全

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：環境・景観・屋外広告物条例制定都市数(ただし、A級以上の観光資源・伝建地区等のある市町村のみ)

条例の制定自治体数について、環境条例は横ばいであるが、景観条例は増加している。屋外広告物条例の制定数は少ないが、微増している。

図表 4 - 2 環境・景観・屋外広告物条例制定都市数



(資料) 各年度アンケート調査による
A級以上の観光資源・伝建地区等のある市町村のみを対象とした

環境・良好な景観の保全についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
環境の保全	「地域いきいき観光まちづくり 2009」に地域づくりのノウハウとして成功・先進例の掲載・紹介 <東北運輸局>
良好な景観の保全	景観行政団体増加に向けた取り組みの実施 <宮城県> 仙台市「杜の都」景観計画による景観づくりへの規制・誘導 <仙台市>

は実施団体を示す

具体事例紹介：地域いきいき観光まちづくり

地域づくりのノウハウ

保存のための「住民憲章」や茅葺き技術の伝承、修景の進展

住民意識と制度の変化

【課題】重要伝統的建造物群保存地区に選定される以前は、茅葺きからトタン屋根にする家もあり、歴史的な景観を保全するという意識も少なかった

【解決策】重要伝統的建造物群保存地区選定を契機として、景観や文化財の保護を目的とした「大内宿保存会」を結成。

「大内宿を守る住民憲章」をつくり、「売らない、貸さない、壊さない」の3原則を住民に呼びかけ

技術の継承

【課題】茅葺き職人の高齢化や後継者不足による技術継承が難しくなりつつあった

【解決策】大内宿に伝わる「結い」というくらしの知恵の活用と、茅葺きの技術を地域で守り継いでいくため「大内宿結いの会」を結成

大内宿の保存事業

【課題】保全・修景を進めるためのルール不足

【解決策】手続きプロセスを設定し、景観の保全と茅葺き屋根の修理・修景の取りまとめを実施

屋根の茅葺き希望者による事前申請、保存会で審査

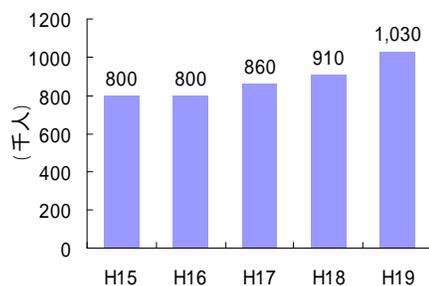
下郷町教育委員会の許可を得てから茅葺き作業に着手

➡ 年間 100 万人の来訪者



▲結いによる茅葺き屋根の葺き替え

茅葺き屋根が並ぶ大内宿➤



▲大内宿への観光入込客数



(2) 観光旅行者の利便の増進

答申の要点

インターネットの活用により、旅行者にダイレクトな情報提供を可能とし、また**情報発信**とともに個人旅行者の予約・支払い手段として活用する。さらに、今後の中高年齢層の観光需要の増加が見込まれる中で、**中高年が旅行しやすい環境づくり**を進める。

本目標に位置づけられた施策

情報通信技術の活用
国内旅行における中高年齢層の需要拡大に伴う対策の強化

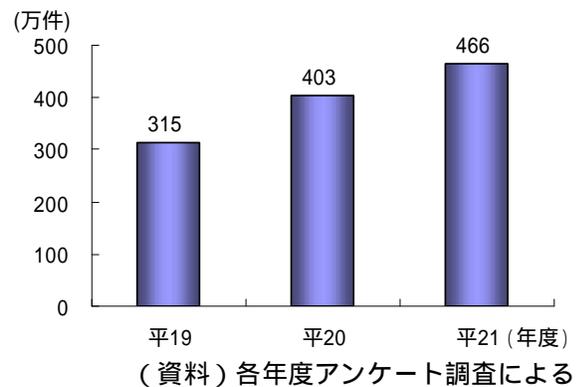
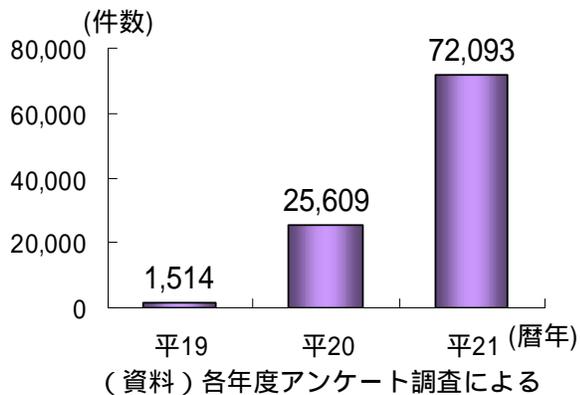
【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：東北観光推進機構ポータルサイトへのアクセス数

東北観光推進機構のホームページアクセス数は大幅に増加し、自治体の運営する観光サイトのアクセス数も年々増加している。

図表4-4 観光ポータルサイトアクセス数

実施機関	平19	平20	平21
東北観光推進機構	1,514件 (平成20年1~3月) 約500件/月	25,609件 (平成20年4月~平成21年3月) 約2,150件/月	72,093件 (平成21年4月~平成22年1月) 約6,550件/月
	(資料)各年度アンケート調査(東北観光推進機構資料)による。		
自治体	315.1万件	402.7万件	466.2万件
	(資料)各年度アンケート調査による(青森県、岩手県、秋田県、宮城県(平成20のみ)、山形県、仙台市)の運営するサイトの合計。		



観光旅行者の利便性促進についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
情報通信技術の活用	<p>観光ホームページでの着地型観光の専用ページ「ふくしま TAVITTO」の公開、地域記者ブログによるきめ細やかな情報提供の実施 <福島県></p> <p>データベース機能を有する新観光情報サイト (apti net) の構築 <青森県></p>
国内旅行における中高年齢層の需要拡大に伴う対策の強化	<p>「駅長オススメの小さな旅」「駅からハイキング」における観光ガイドの活用 <東日本旅客鉄道></p> <p>沿線の N P O によるスノーシュートレッキングと列車乗車を組み合わせた企画の実施 <津軽鉄道></p> <p>沿線でのウォーキング大会やトレッキングツアーの実施 <三陸鉄道、秋田内陸縦貫鉄道></p>

は実施団体を示す

具体事例紹介：観光情報提供サイトの構築

目的

【青森県】

- ・2010年12月の東北新幹線全線開業に向けた、県の魅力の情報発信の拡大
- ・観光情報データベースの各種団体の共有・編集による即時かつ信頼性のある情報の提供

【福島県】

- ・よりわかりやすい情報の提供
- ・着地型観光専用ページによる地域における詳細な観光情報の提供
- ・自由投稿ページ、ブログページ掲載による多方面からの情報発信

新設内容

【青森県】

- ・青森県内の観光情報を網羅したデータベースの構築
- ・県や市町村、関係団体が情報を共有、直接情報登録、更新することで常に旬の情報を掲載
- ・既設コーナー（お薦めコース、イベント情報、ガイド情報、パンフレットダウンロード、投稿情報コーナー）の相互の関連付け

【福島県】

- ・着地型観光専用ページ
- ・投稿型フォトアルバム
- ・地域記者情報
- ・女将さんブログ特集ページ
- ・エリアからの情報検索機能、観光スポット情報のリニューアル

リニューアル後アクセス（福島県）

- ・日平均約 16,300 件
- ・地域記者ブログ日平均 4,100 件
(12/22-1/18 現在)
- 平成 20 年度日平均 2,800 件



関係団体による情報更新



(出典) 青森県観光情報アプティネット aptinet、「福島の旅」TAVITTO

(3) 新たな観光旅行の分野の開拓

答申の要点

旅行者ニーズが多様化している中で、地域独自の魅力を活かした新たな旅行需要の創出により地域を活性化させるニューツーリズムを促進する。そのためにも、**地域発の旅行商品と旅行者を結ぶ仕組みの構築**が必要である。

本目標に位置づけられた施策

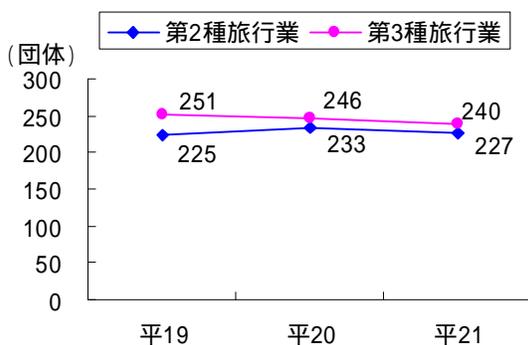
- 長期滞在型観光
- エコツーリズム
- グリーンツーリズム
- 文化観光
- 産業観光
- ヘルスツーリズム
- その他のニューツーリズム

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：第2種・第3種旅行業登録数
フィルムコミッション誘致件数

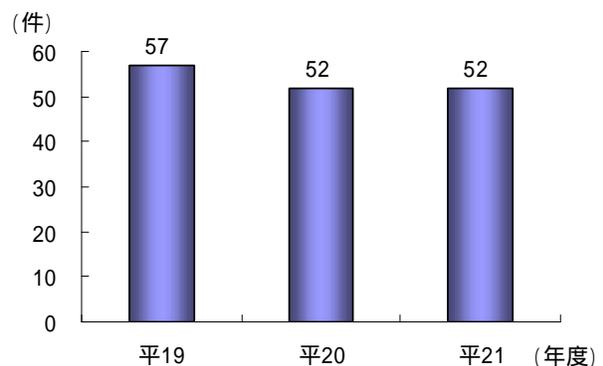
第2種旅行業は横ばい、第3種旅行業の登録数は減少した。
フィルムコミッション等における映画、ドラマの誘致件数は横ばい傾向にある。

図表4-5 第2種・第3種旅行業登録数



(資料) 各年度アンケート調査による

図表4-6 フィルムコミッション誘致件数



(資料) 各年度アンケート調査による

フィルムコミッション誘致件数は岩手県、宮城県、青森県、仙台市の合計による

フィルムコミッション誘致件数：映画、ドラマの撮影誘致件数

新たな観光旅行分野の開拓についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
長期滞在型観光	観光圏認定エリアを中心に連泊プラン、滞在プログラムの進展 <山形県、福島県>
エコツーリズム	奥入瀬エコツーリズムプロジェクト（マイカー規制期間中のエコツアーの試行）と、十和田奥入瀬認定ガイド養成講座の実施 <青森県>
グリーンツーリズム	あもりツーリズムを推進するため、達者村（南部町）へのアドバイザー派遣 <青森県> 福島県ふるさと子ども夢学校推進協議会を設置、受入体制の充実強化、情報発信等の実施 <福島県>
文化観光	太宰治生誕 100 年を記念し、出版社とのタイアップキャンペーンや野外劇「津軽」の実演等の実施 <青森県> 会津仏教文化に関する仏閣、モデルコースを掲載した「会津・米沢仏都周遊」マップを作成し情報発信等の実施 <会津・米沢地域観光圏協議会>
産業観光	秋田バイオエタノール施設と連携した教育旅行、視察旅行の開発 <JTB東北> 市内の食品工場等を組み込んだツアーを市民向けに造成 <仙台市> 環境産業観光推進（主に教育旅行）のための協議会の事業として、リサイクル産業を中心とした観光振興を実施 <秋田県>
ヘルスツーリズム	アクティブツーリズム総合戦略事業における「健康づくり」をテーマにした旅行の提案、バルネオセラピスト（温泉保養士）による温泉を活用した健康づくりの提案（いわき湯本温泉） <福島県> 地方の元気再生事業を通じ、温泉を活用に併せウォーキングによる健康メニューの商品造成の実施支援 <東北運輸局>
その他のニューツーリズム	ゴールデンランバーのロケ地マップの作成・配布 <仙台市> 藤沢周平映画、「おくりびと」等のロケ地情報等発信 <山形県> 栗原市のロケ地（佐野住宅）の PR と定期観光バスコースの設定、せんだい・宮城フィルムコミッション参加負担金 <宮城県> 韓国ドラマ「アイリス」のロケ地秋田との連携 <JTB東北>

は実施団体を示す

具体事例紹介：新たな観光旅行の分野の開拓

実施概要

実施ツアー：デトックス医食同源健康体験ツアー

実施主体：尾花沢 IT ものづくり研究会、あけぼの観光

実施期間：2009年11月7日～8日

実施内容：薬草膳、漢方薬湯、トレーニング（1日体験）、スピンドルストレッチ 等

ポイント

コンセプト

- ・山間のホテルに宿泊しながら、無理のない運動と自身の日々の健康に対する考え方、毎日の食生活を見つめ直す

体験内容

- ・地元医師、漢方薬膳指導師のもと、ウォーキングで楽しむ、温泉で体を癒すなど、晩秋の尾花沢の味覚と観賞を楽しみ、体と心をほぐす健康体験ツアー

ターゲット

- ・ツアー体験後も気軽に足を運べる県内と宮城県内の30代～60代
- ・「健康オタク層」

PR手法

- ・地元の観光関係の広報媒体をタイムリーに活用
- ・地域の異業種交流から発祥した新しいヘルスツーリズムのツアー企画である事をアピール、口コミによる広報を展開



(4) 接遇の向上等

答申の要点

外国人観光客への案内や携帯電話・携帯端末を活用した観光情報を入手できる環境づくりを進めるとともに、宿泊施設・観光施設職員の接客マナーの向上を通じて、魅力ある観光地作りを推進する。

本目標に位置づけられた施策

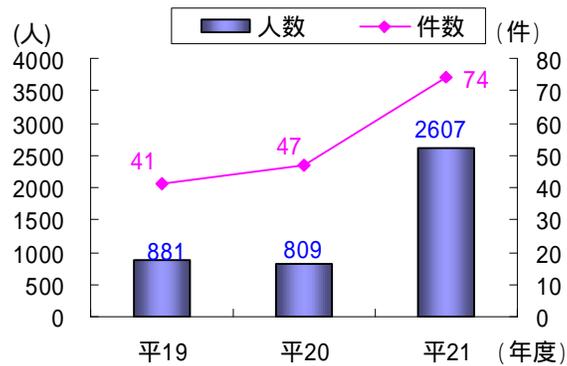
案内表示の充実等
接客マナー講習会等

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：接遇研修実施件数、受講者数

接遇研修等の実施件数、受講者数ともに増加している。

図表 4 - 7 接遇研修等実施数、受講者数



(資料) 各年度アンケート調査による

青森県は平成 21 年度のみデータとなっている。

接遇向上についての取組状況

施策	平成 21 年における具体的な取組事例
案内表示の充実等	高速道路 SA などにおける観光案内板の整備 <福島県> デジタルサイネージによる実証実験の実施 <JR 東日本>
接客マナー講習会等	「観光ホスピタリティ向上セミナー」等の開催 <青森県、秋田県> 自治体の観光行政担当者を対象とした観光基礎講座の開設 <秋田県>

は実施団体を示す

具体事例紹介：交通結節点での情報提供（デジタルサイネージ）

背景

- ・観光客への迅速・正確かつわかりやすい交通情報の提供の必要性
- ・限られた空間における多くの交通や観光情報の提供可能性の検討



印刷や加工の手間がかからず、緊急の修正にもオンラインで対応できる
「駅情報ボード」の実証実験

実施概要

実施機関：2009年7月17日～2010月6月末

実験対象：ツールビジョン（JR 東日本の商品情報や人気車両の映像等）

駅情報ボード（時刻表、駅構内図、路線図・運賃表、駅周辺地図）

その他パンフレットラック、サインボード

情報スペース「i-ステーション仙台」の開設

内容

駅情報ボード

- ・タッチパネル式
 - ・携帯URL誘導表示（転送可能）
 - 仙台駅構内図、仙台駅発時刻表、仙台駅周辺路線図及び運賃、駅周辺案内地図
- ユニバーサルデザイン
毎日時刻を更新、急な時刻変更にも対応可能



駅情報ボード



（出典）株式会社ビズライト・テクノロジー ホームページ

(5) その他(観光旅行の安全、観光統計)

答申の要点

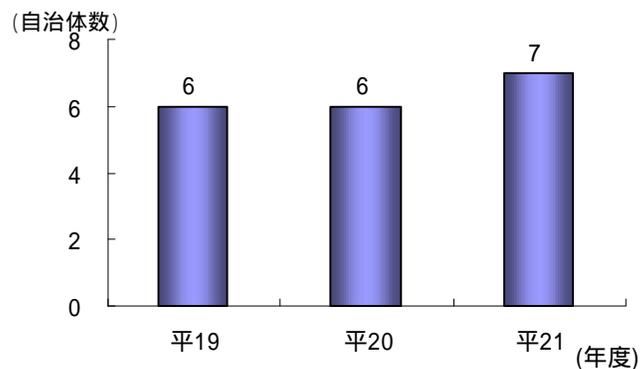
観光地における**事故や災害に関する情報を迅速・正確に提供**するほか、観光旅行における事故の発生防止に努める。また、国・地方公共団体・観光事業者等の関係者は**観光統計の推進**に協力するとともに、その有効活用を図る。

【答申目標の達成状況】

アウトカム指標：各県携帯サイトによる災害等発生時情報提供サイト数

東北6県および仙台市で携帯サイトによる災害等の情報が提供可能となっている。

図表4-8 各県携帯サイトによる災害等発生時情報提供サイト数



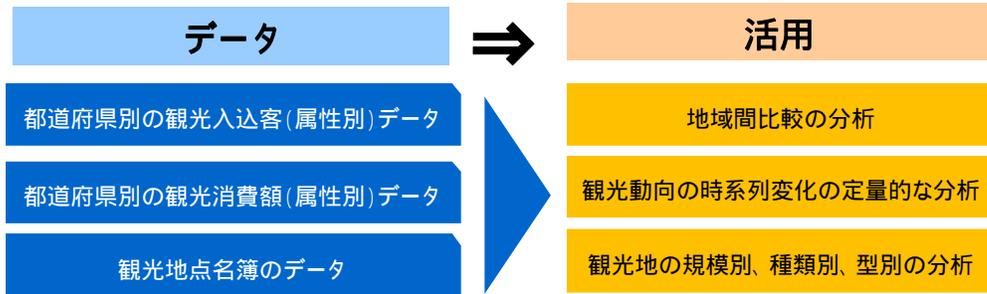
(資料) 各年度アンケート調査による

秋田県の提供開始時期が不明であるため、平成19年度、20年度のデータは6自治体となっている。

具体事例紹介：観光統計の活用

平成21年12月 「観光入込客統計に関する共通基準」「同調査要領」の策定

観光入込客統計から得られるもの



パラメータ調査結果で得られるデータ等

- ▶ 来訪者の属性(性別、年齢、発地都道府県、国籍別)
- ▶ 来訪者のグループ数、グループ属性(家族、友人、職場・学校の団体等)
- ▶ 県内の流動、交通機関
- ▶ 県内消費の品目別消費額
- ▶ その他、施策に活用できる来訪調査等も同時に行うことが可能 等

- ▶ 実態の把握、都道府県観光基本計画等のPDCAサイクルへの活用、地域の観光経済波及効果の算出等

共通基準導入のメリット・利活用

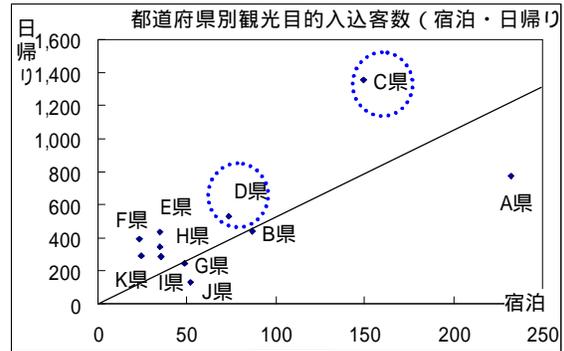
全国共通の基準に基づく統計調査のメリット

統計整備	調査の信頼性を確保した、比較可能な統計 観光の規模(経済規模)、観光の構造(経済構造)が分かる。
比較検討	都道府県、市町村間での入込客数・消費額 産業連関分析が可能に 同様の観光地におけるポジショニング(位置付け)が明確になる。
利活用	施策評価・成果説明の明確化。 目標設定 地域の経済効果の算出・同分類の観光地点間・四半期変動や経年変化等。
説明責任	施策に要するコストと効果が明確に(透明性の向上) 効率的な予算配分が可能となる。 地域住民、議会、地元事業者等に対する説得力ある説明が可能に。
情報提供	関係主体(市町村、観光協会、民間、マスコミ、学会、学生、調査機関等)への情報提供ができる。 より詳細な調査・分析、市場調査が実施可能 観光振興の高度化



比較可能な観光統計を活用したPDCAサイクルで、効率的で継続的な業務改善が可能に

観光入込客統計の分析イメージ 観光入込客数 < 試験調査結果 >



D県は、よく似た特性(観光地点等分類・数、立地等)のC県まで、観光入込客数を伸ばせるのでは。
C県は日帰り主体の観光客に宿泊してもらうことが重要では。

H22年度の観光統計に関する取組

H22 拡充

宿泊旅行統計調査(四半期)

旅行・観光消費動向調査(四半期)

H22 新規

訪日外国人旅行動向調査(四半期)

観光産業構造基本調査
 < 観光センサス >

沖縄県での活用事例

業界説明会:

実施した結果について、観光業界への説明会を開催し、情報提供に努めるとともに、今後の統計調査について業界との意見交換を実施

HP掲載:

沖縄県観光企画課のHPに各種統計調査の結果を公開

活用事例: 冊子作成

観光要覧(年度版)

- ・当該年度の観光客数、観光収入、重点施策や制度の説明など
- ・毎年作成し業界や自治体等へ配布

採点! 沖縄観光(業界向け)

- ・分野ごとの満足度を点数化し、図表を用いて分かりやすく紹介
- ・旅行前の期待度と旅行後の満足度のギャップを図示

沖縄観光の潜在マーケット(業界向け)

- ・沖縄を訪問したことのない人を対象とした調査(インターネット)
- ・来訪経験者と未来訪者の沖縄観光に対するイメージ比較

その他

- ・観光学習教材への活用 *教材及びワークブック作成
- ・小学校の授業で活用